

見守りシステムを活用した介護過程

～良質な睡眠を目指した日中活動の取り組み～

特別養護老人ホーム 森町愛光園
介護職 中村 柚輝

倫理的配慮

今回の研究発表にあたり、ご本人およびご家族へ研究の趣旨、個人が特定されないよう個人情報保護することの説明を行い、了承を得た。

施設紹介

社会福祉法人聖隷福祉事業団
特別養護老人ホーム森町愛光園
(周智郡森町)

従来型特養・・・60床

短期入所・・・12床

《併設施設》

地域密着型介護老人福祉施設 ユニット型20床 / サテライト型29床

【施設理念】

『わたしたちは、ご利用者・地域・職員の「幸せ」のために最善を尽くします』



施設紹介

＜平屋造で1フロアに72床＞



見守りシステム導入経緯

2022年度 従来型フロアに見守りシステムを導入
※同時期に、インカムシステム
タブレット型記録システム も導入



2023年度 見守りシステムのオプション機能を導入
ご入居者および職員の行動データを蓄積し、分析・
見える化し、介護現場で活用できるサービス
→得られた情報を基にして客観的な判断をし、
ご入居者様に合わせたケアや業務効率化に活用

見守りシステムから得られるデータ

- コール・通知の分析（件数・時間帯など）
- スタッフのコールへの対応状況
- ご利用者の居室での過ごし方
- ご利用者の夜間の睡眠状況



これまで確認できなかった夜間の睡眠状況が分かるようになった

目的

見守りシステムから得られるデータを活用して、
ご利用者の日中の活動量を増やすことで、
夜間の睡眠状況にどのような変化が生じるかを
検証し、ICTを介護過程に活用していく。

方法

【研究期間】

2024年4月～6月の3ヶ月間

【データ収集方法】

- ① 日中活動量を増やす前の睡眠状況と日中の様子を把握
- ② 支援、機能訓練として日中の活動量を増やす
- ③ 日中活動量を増やした後の睡眠状況と日中の様子を把握

対象ご利用者

A 様… 男性（87歳）／ 要介護 4

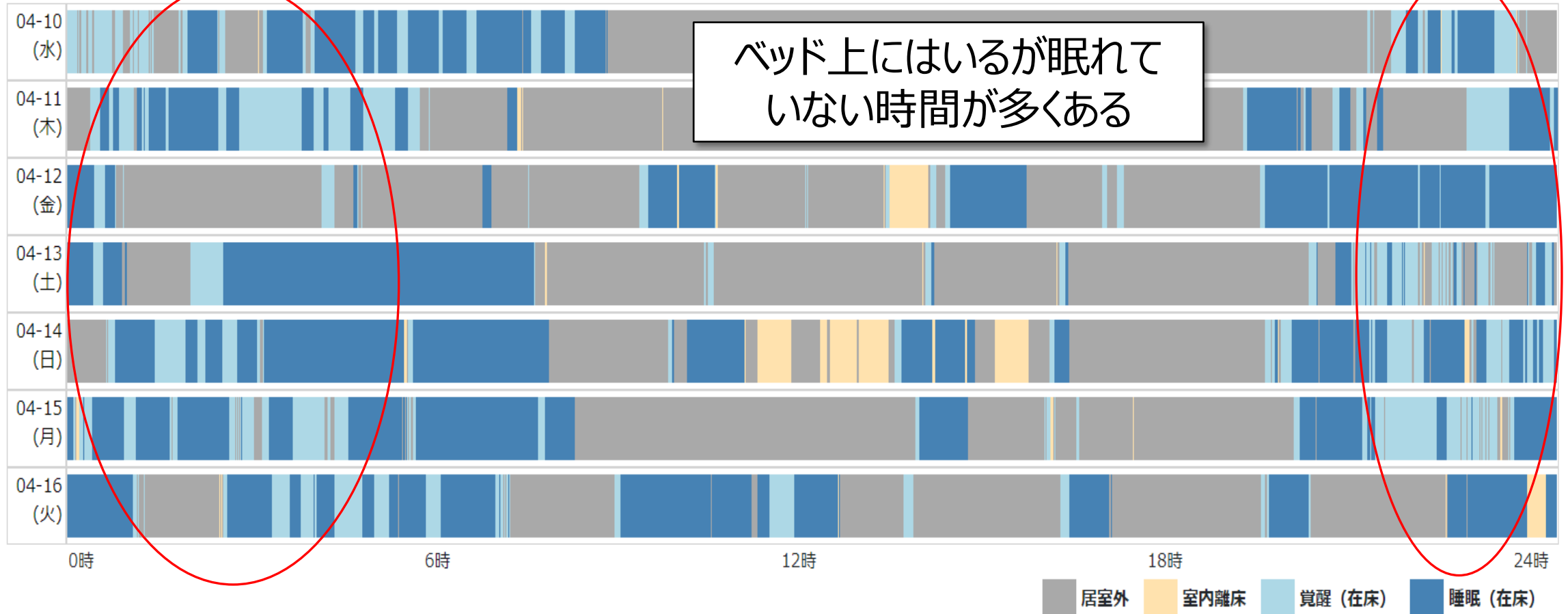
認知症あり（認知症自立度Ⅲa）

ADL { 歩行…付き添い・介助歩行
排泄…全介助
食事…見守り

意思表示は可能、意思疎通はやや困難

取り組み前の状況

〈夜間の睡眠の状況〉 2024年4月10日～4月16日の7日間



取り組み前の状況

〈ケース記録からの日中・夜間の様子〉

- 歩行時に傾きがあるため、必要時、歩行介助を行う
- ご本人の歩き出すタイミングに合わせて歩行付き添い・介助行う
- 食事はほぼ全量摂取している
- 昼間はソファで過ごすことが多く、いびきを眠ることがある
- フロアで歩き出して転倒することがあった
- 入床後も21時頃に靴を履いてベッドから起き出すことがある

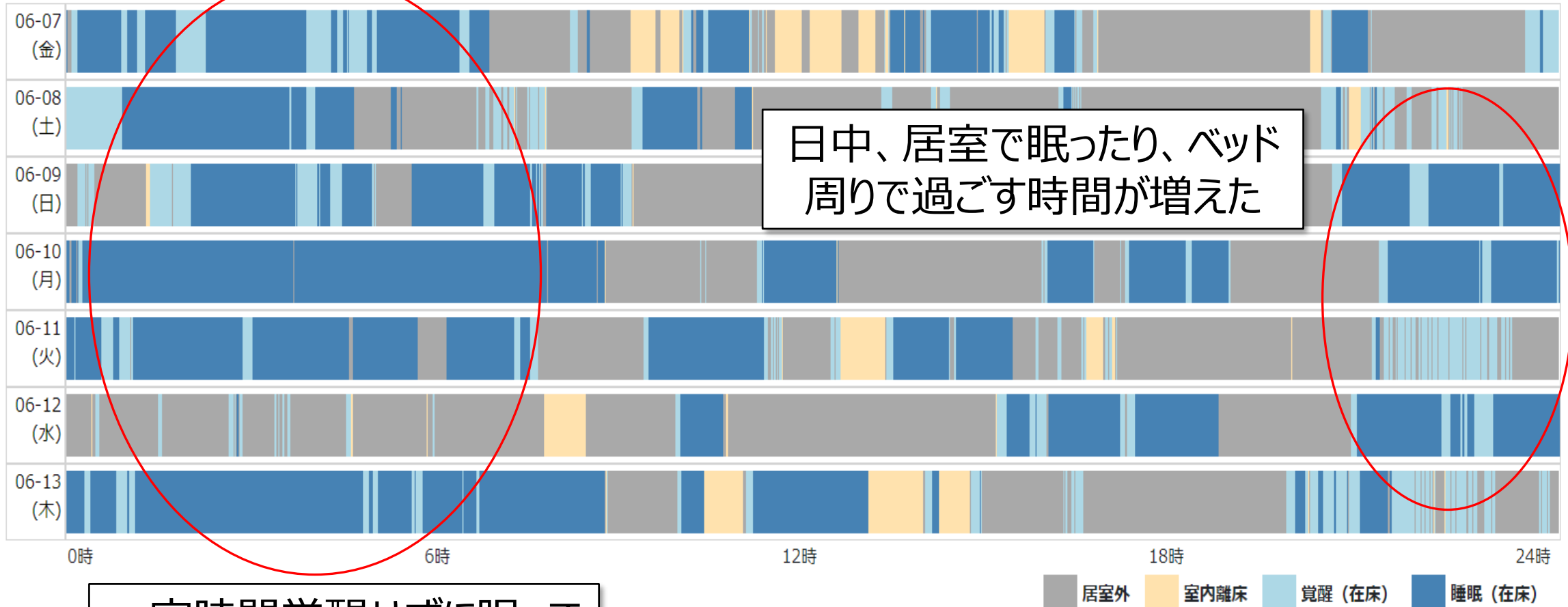
『日中活動を増やす』取り組み

2024年4月下旬～実施 （※入院による中断あり）

- ①機能訓練として園内を歩行する
- ②できる軽作業をやってもらう
- ③ ①～②中に本人からの発話を促す

取り組み後の状況

〈夜間の睡眠の状況〉 2024年6月7日～6月13日の7日間



日中、居室で眠ったり、ベッド
周りで過ごす時間が増えた

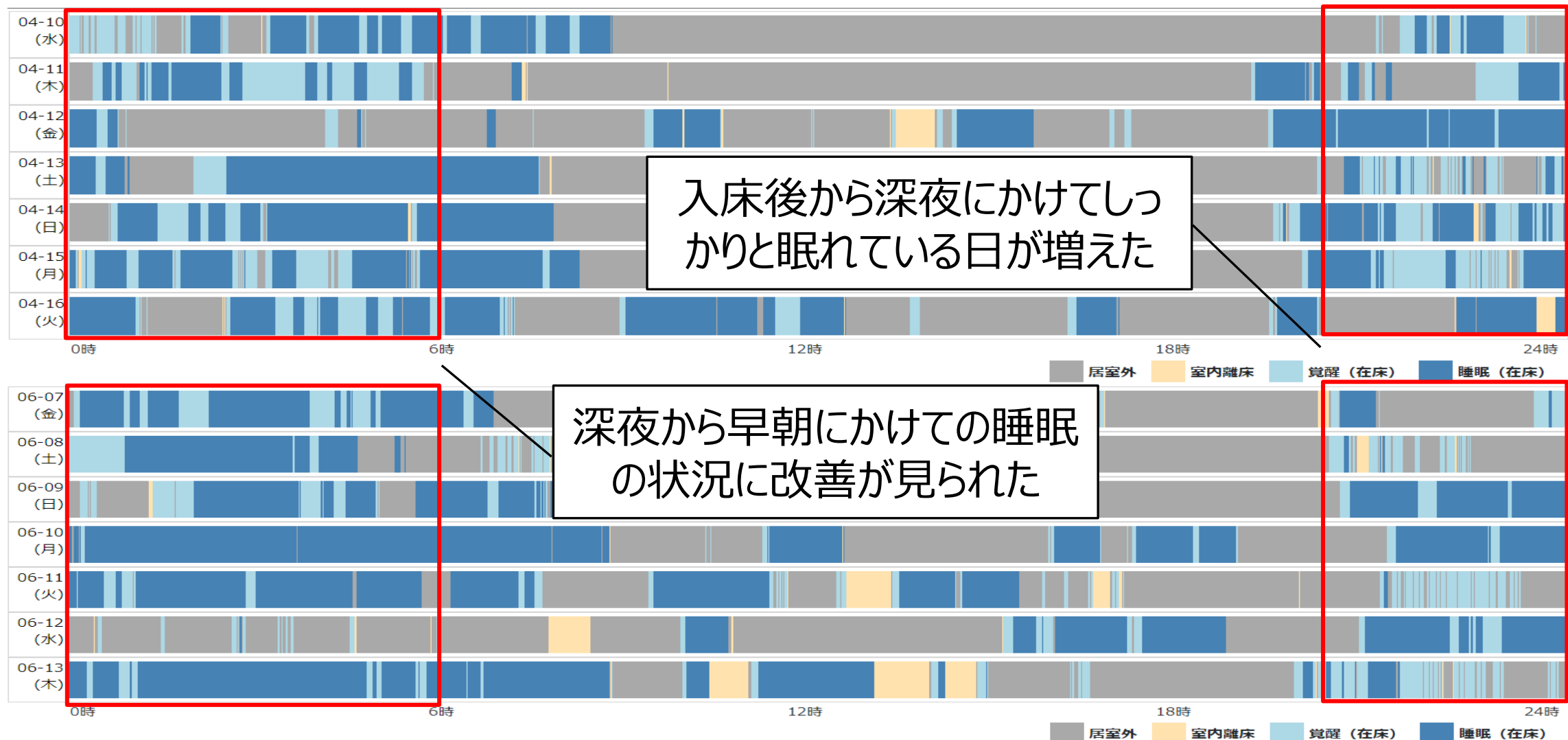
一定時間覚醒せずに眠って
いる時間が増えた

取り組み後の状況

〈ケース記録からの日中・夜間の様子〉

- 退院後は体力低下が見られた
- 食事は全量食べられている
- 自分から居室へ行き、ベッドで横になるも、すぐに起きることが多い
- ソファから自分で立ち上がることがある
- 歩行時の不安定さが少し軽減している
- 入床後に起き出してベッド脇で転倒することがあった

取り組み前後の睡眠状況の比較



結果（取り組み後の変化）

- 断続的な睡眠に若干改善が見られた
- 日中にベッドで臥床したり眠ったりする時間は増加した
- 歩行状態に若干改善がみられたが、転倒事故は発生した
- 入床後にまとまって眠れた日が2日⇒3日に増加（1週間の内）
- 深夜帯にまとまって眠れた日が2日⇒4日に増加（1週間の内）

考察

- 活動を増やした前後で、睡眠状況に変化がみられる
 - ➡ 日中活動が夜間の睡眠状況に影響を及ぼしているのではないか
- 日中活動の支援により運動量や刺激が増えた
 - ➡ スムーズな入眠とその後の良眠につながったのではないか
- 歩行状態の改善により、転倒リスクが増大した

まとめ・今後の課題

＜見守りシステムオプション導入前＞

ベッド上にいる時間 ⇒ “睡眠時間”と捉えていた

＜見守りシステムオプション導入後＞

睡眠時間や睡眠の質の見える化が可能になった

『より良い睡眠』⇒『より良い生活』 のために
ICTを効果的に利用者ケアや介護過程に活用していく